

人物で知る中国～孔子

講師 加藤 徹 <http://www.isc.meiji.ac.jp/~katotoru/>

孔子は今から 2500 年も前の人物で、世界的に知られています。孔子は貧しい生活のなかでいろいろな仕事をしながら、自分で学問を修め、学者兼政治家になりました。有名な『論語』は孔子と弟子たちの言行録で、孔子の死後、約 700 年の歳月をかけてできあがった書物です。中国文化に大きな影響を与えた孔子を通して中国を学びます。

○キーワード、ポイント

★軸の時代 Axial Age

枢軸時代(すうじくじだい)とも。ドイツの哲学者カール・ヤスパース(1883 年-1969 年)が提唱した、紀元前 500 年前後に世界各地で、宗教や哲学の開祖が、それぞれ独自に続々と登場したことを指す。

中国の孔子(前 552/前 551-前 479)、インドの釈迦(中村元の説によれば前 463-前 383)、ギリシャのソクラテス(前 470 頃-前 399)など。

★士 し

東アジアの伝統社会の中間支配階級。中国の士大夫階級(読書人階級)、朝鮮王朝の両班、近世日本の武士などは「士」であり、儒学を典範とした。

孔子が生きた春秋時代の身分は、

天子(周王) 諸侯 卿(けい) 大夫(たいふ) 士 良民(庶人) 奴婢
であった。孔子の出身階級は「士」である。士は「士大夫」(したいふ)や、「士民」「士農工商」など、上と下の階層と並べて称せられることも多い。

★聖人 せいじん(「しょうにん」は仏教の聖人)

中国の儒教と道家思想(『老子』など)に共通するのは、「聖人」による人類の救済という思想である(日本の作家、司馬遼太郎の説)。

儒教で聖人とされるのは、

堯、舜、禹(夏王朝の創業者)、湯王(殷王朝の創業者)、武王(周王朝の創業者)、周公旦(武王の弟で、初代の魯公)、孔子(魯に生まれた学者)
の七人であり、孟子は「亜聖」とされる。聖人は、アブラハムの宗教(ユダヤ教、キリスト教、イスラム教)における預言者と少し似ているところがある。

○辞書的な説明

★精選版 日本国語大辞典「孔子」より引用

こう - し【孔子】 中国、春秋時代の学者、思想家。名は丘(きゅう)。字(あざな)は仲尼(ちゅうじ)。儒教の開祖。魯の昌平郷陬邑(すうゆう)(=山東省曲阜県)に生まれる。大司寇(だいしこう)として魯に仕えたが、いれられず、辞して祖国を去り、多くの門人を引き連れて、約一四年間、七十余国を歴訪、遊説。聖王の道を総合大成し、仁を理想とする道德主義を説いて、徳治政治を強調した。晩年、教育と著述に専念し、六経(りくけい)、すなわち易、書、詩、礼、楽、春秋を選択編定したとされる。後世、文宣王と諡(おくりな)され、至聖として孔子廟(文廟ともいう)にまつられ、近代に至るまで非常な尊敬を受けた。呉音で読んで「くじ」ともいう。また、折目正しい態度、堅苦しい人物や物事などのたとえにいう。(前五五一頃 - 前四七九)

★デジタル大辞泉より引用

ろんご【論語】 中国の思想書。20 編。孔子没後、門人による孔子の言行記録を、儒家の一派が編集したもの。四書の一。処世の道理、国家・社会的倫理に関する教訓、政治論、門人の孔子観など多方面にわたる。日本には応神天皇の時代に百済くだらを経由して伝来したといわれる。

★デジタル大辞泉より引用

じゅう - きょう [- ケウ]【儒教】

孔子が唱えた道德・教理を体系化したもの。その学問内容を儒学という。儒教は、その国家教学としての規範性・体系性を強調した称。→儒学

○孔子の生涯

・紀元前 552 年または前 551 年に、魯国の昌平郷のはずれにある村、現在の山東省曲阜(きょくふ)で、70 歳すぎの武士であった叔梁紇(しゅくりょうこつ)と、16 歳の巫女であった顔徴在(がんちょうざい)のあいだに、「野合」の子として生まれた。

数え 3 歳の時に父を、17 歳の時に母を失い、若いころから様々な仕事をしながら、学問を身に着けた。

・前 538 年、15 歳で学問に志した。

・前 534 年、19 歳で結婚し、翌年に長男の孔鯉(字は伯魚)をもうけた。その後、魯の国に仕官した。司馬遷の歴史書『史記』によると、孔子の身長は 9 尺 6 寸もあった。春秋時代の 1 尺は現在の 22.5cm なので、単純計算すると 216cm となる。ちなみに、ジャイアント馬場は 209cm くらいだった。

・前 518 年、35 歳で初めて弟子をとり、周の都である洛陽に遊学した。

・前 517 年、36 歳のとき、魯の国では下剋上により、魯の昭公が家老の季孫氏との戦いに

敗れて斉へ国外追放された。孔子は昭公のあとにしたがって斉に亡命し、「三月、肉の味を忘れる」など文化に触れた。その後、魯に戻り、仕官はせず、後進の教育に励んだ。顔回や子路、子貢など高弟の多くはこの時期の入門者らしい。

- ・前 501 年、52 歳。魯の定公によって中都の宰に取り立てられる。
- ・前 500 年、53 歳。魯の定公と斉の景公の和議「夾谷の会」で定公に随行し、終始、タカ派のようなアドバイスを行う。
- ・前 497 年、56 歳。弟子らとともに魯を出て、13 年のあいだ諸国を巡る。
- ・前 484 年、69 歳。魯に帰国し、学校を開いて、經典の整理と後進の教育に専念する。
- ・前 481 年、72 歳。孔子が編纂したと言われる魯の年代記『春秋』は、この年(哀公 14 年)の「獲麟(かくりん)」の記事で終わる。この年、愛弟子の顔回が貧窮のうちに死去。
- ・前 480 年、73 歳。衛に仕えていた子路が死去。
- ・前 479 年、74 歳で死去。

○その他

- ・西洋史では「ソクラテス以前の哲学者」(pre-Socratic philosopher)という言い方がある。古代中国でも、孔子より前の思想家については曖昧模糊とした部分が多い。
- ・孔子についてのまとまった最初の伝記は、孔子の時代からおおよそ 4 百年後の司馬遷が書いた歴史書『史記』の「孔子世家」である。
- ・『論語』は孔子の著作ではなく、孔子の死後、孫弟子(弟子の弟子)あたりが世代累積型集団創作として編纂したものらしい。中国の儒教では、『論語』には孔子自身の筆が入っていないことから、『論語』はいわゆる「五経」より格下のテキストとされた。日本人は、『論語』を孔子の「肉声」を伝える書物と見なして、むしろ中国よりも尊んだ。
- ・『論語』によると、孔子は肉料理や白いごはんが大好きで、酒にも強かった。
- ・孔子の子孫名乗る人は現在 400 万人を超える。

孔子の嫡流は歴代の王朝から貴族の位を与えられた。北宋からは衍聖公(えんせいこう)に封爵された。清の滅亡後、衍聖公は「大成至聖先師奉祀官」という世襲の官吏に改められ、現在は孔子の 79 代目の嫡孫である孔垂長(1975 年生まれ)がつとめている。

埼玉県の JR 西川口駅から徒歩 3 分のところにある、孔子の 73 代目の子孫・山田慶忠(よしただ)氏が経営する中華料理店「異味香(イーウイシャン)」は、雑誌などでも紹介されて有名である。

○『論語』で読む孔子の言葉と横顔

『論語』は世界各国語に翻訳されている。英訳は、例えば以下で読める。

https://en.wikisource.org/wiki/The_Chinese_Classics/Volume_1/Confucian_Analects

西洋人は孔子を Confucius と呼ぶが、これは「孔夫子」の中国語の発音をラテン語化したものである。また『論語』の英訳タイトルは伝統的に Analects もしくは the Analects of Confucius である。

学而第一

子曰、学而時習之、不亦説乎、有朋自遠方来、不亦楽乎、人不知而不愠、不亦君子乎。

子曰く、学んで時に之を習う、また説ばしからずや。朋遠方より来たる有り、また楽しからずや。人知らずして愠みず、また君子ならずや。（先生は言われた。「学んだことを後で実習する。なんと楽しいじゃないか。友達が遠くから来る。なんと嬉しいじゃないか。他人に認めてもらえなくても恨まない。まことに君子じゃないか」）

雍也第六

子曰、知之者、不如好之者。好之者、不如楽之者。

子曰く「之を知る者は之を好む者に如かず。之を好む者は之を楽しむ者に如かず」と。

穂積重遠(ほづみしげとお)『新訳論語』の訳文：孔子様がおっしゃるよう、「知る者より好む者が上、好む者より楽しむ者が上じゃ。」

雍也第六

伯牛有疾、子問之、自牖執其手、曰、亡之、命矣夫、斯人也而有斯疾也、斯人也而有斯疾也。

伯牛(はくぎゅう)、疾(やまい)あり。子、これを問う。牖(まど)より其の手を執(と)りて曰く「之を亡(ほろ)ぼせり、命(めい)なるかな。斯(こ)の人にして斯の疾あること、斯の人にして斯の疾あること」と。

魚返善雄『論語新訳』の訳文：伯牛がライ病なので、先生は見舞いにゆかれ、窓からかれの手をとって——「おわかれだ。運命だなあ…。こういう人でも、こんな病気になるのか…。こういう人でも、こんな病気になるのか…。」

先進第十一

季路問事鬼神。子曰。未能事人。焉能事鬼。曰。敢問死。曰。未知生。焉知死。

季路(きろ)、鬼神に事(つか)うることを問う。子曰く「未だ人に事うること能(あた)わず、焉(いづく)んぞ能(よ)く鬼(き)に事えん」と。曰く「敢えて死を問う」と。曰く「未だ生(せい)を知らず、焉んぞ死を知らん」と。

下村湖人『現代訳論語』の訳文：季路が鬼神に仕える道を先師にたずねた。先師がこたえられた。——

「まだ人に仕える道もわからないで、どうして鬼神に仕える道がわかろう」

季路がかさねてたずねた。——

「では、死とはなんでありましょうか」

すると先師がこたえられた。——

「まだ生がなんであるかわからないのに、どうして死がなんであるかがわかろう」

述而第七

子在齊、聞韶、三月不知肉味、曰、不圖為樂之至於斯也。

子、齊に在(いま)して韶(しょう)を聞く。三月(さんげつ)肉の味を知らず。曰く「図(らざりき、樂(がく)を為すことの斯(ここ)に至らんや」と。

魚返善雄『論語新訳』の訳文:先生は齊(セイ)の国で、「韶(ショウ)の曲」を三つきも聞いてならい、肉の味もわからなかった。そして —— 「はてさて、よい音楽はこうなるものか。」

郷党第十

食不厭精、膾不厭細、食饅而餲、魚餒而肉敗不食、色惡不食、臭惡不食、失飪不食、不時不食、割不正不食、不得其醬不食、肉雖多不使勝食氣、唯酒無量、不及亂、沽酒市脯不食、不撤薑食、不多食、祭於公不宿肉、祭肉不出三日、出三日不食之矣、……

食(いい)は精(しらげ)を厭(いと)わず。膾(なます)は細きを厭わず。食の饅(い)して餲(あい)せると魚の餒(あさ)れて肉の敗(やぶ)れたるは食(く)らわず。色の悪(あ)しきは食らわず。臭いの悪しきは食らわず。飪(じん)を失えるは食らわず。時ならざるは食らわず。割(きりめ)正しからざれば食らわず。其の醬(しょう)を得ざれば食らわず。肉は多しと雖(いえど)も、食(し)の氣に勝たしめず。唯だ酒は量なく、乱に及ばず。沽(か)う酒と市(か)う脯(ほじし)は食らわず。薑(はじかみ)を撤(す)てずして食らう、多くは食らわず。公に祭れば肉を宿(よべ)にせず。祭の肉は三日を出ださず。三日を出ずればこれを食らわず。……

下村湖人『現代訳論語』の訳文:米は精白されたのを好まれ、膾(なます)は細切りを好まれる。飯のすえて味の変ったのや、魚のくずれたのや、肉の腐ったのは、決して口にされない。色のわるいもの、匂いのわるいものも口にされない。煮加減のよくないものも口にされない。季節はずれのものは口にされない。庖丁のつかい方が正しくないものは口にされない。ひたし汁がまちがっていれば口にされない。肉の料理がいろいろあっても、主食がたべられないほどには口にされない。ただ酒だけは分量をきめられない。しかし、取乱すほどには飲まれない。店で買った酒や乾肉は口にされない。生姜(しょうが)は残さないで食べられる。大食はされない。君公のお祭りに奉仕していただいた供物の肉は宵越しにならないうちに人にわけられる。家の祭の肉は三日以内に処分し、三日を過ぎると口にされない。……

○加藤徹が書いた本で、孔子に言及したもの。

『貝と羊の中国人』『本当は危ない『論語』『漢文力』『怪力乱神』

以上